

会派視察・研修報告書

会派名 公 明 党

代表者名 寺島 芳枝

1 日 に ち	令和7年1月27日(月)
2 視 察 先 研修名、主催者及び会場	福岡県糸島市 市役所
3 参 加 者	寺島 芳枝 片山 竜美
4 調査・研修の テーマ	空き家対策と移住定住政策について
5 主な内容	・空き家や危険空き家対策について ・移住定住対策について
6 所感、提言事項、課題等	【寺島芳枝】 H22 年に 1 市 2 町の合併により誕生した糸島市、R6 年 3 月で人口 103,655 人。福岡空港、博多駅まで 40 分と便利な交通アクセスをもつ。H25 年度から空き家バンクを開始、R5 年度までに登録 96 件、79 件の成立、成約数 82%。移住希望者の住居の受け皿、所有者の空き家の有効活用の入り口、特定空き家となる前の活用手段としての役割を担っている。 空き家を作らないための我が家の未来ノートの活用は是非参考にしたい。 オンラインによる移住相談会を、知識の豊富な定住支援員が窓口や電話に加え、R2 年よりオンラインで開始し、相談の 3 割を占めている。知りたい事は、気軽にオンラインで相談をと、会計年度任用職員 2 名で対応。 移住した希望者に対して、地域コーディネーターが地域密着情報(買物場所、子育て環境、地域行事等)を提供し、転入後の相談対応、フォローアップを個々に行なっている。地域コーディネーターは、16 校区中 15 校区に配置、とくに人口減少地域 7 校区に向けた相談会を実施。 定住促進 WEB サイト「糸島生活」が好評。 結婚支援として、いとしま出会いサポートセンターを 2021 年 9 月から運用し、きめ細かな支援が相まって、人口増加へと繋がっていると感じた。 【片山竜美】 現在放送中の朝ドラ「おむすび」の舞台となっている福岡県糸島市を訪問。人口も10万 4 千人と規模としては多治見市に近いものがあり、そこで主に「空き家対策」と「移住・定住対策」について伺った。 ・ 空き家については、糸島市でも深刻な問題として捉え、早くから「空き家バンク」や「空き家活用推進補助金」など、多治見市と共通する施策を行っていた。 ・ また、「戸建て住宅ニーズバンク」を創設し、家を探している人が、家の

	希望条件を市の HP で広く発信する施策も行っている。 ・ 年に 2 回「空き家オーナー相談会」を実施し、空き家の悩みを一度に相談できる場所も提供している。 ・ 移住・定住対策として、「地域コーディネーター」を小学校区単位で配置し、転入希望者に対して、買物をする場所や子育て情報、地域行事など、その地域でしか分からない地域密着情報を提供している。 ・ さらに「定住支援員」を 2 名配置し、移住希望者に対しては、地域情報の提供や相談を受けたり、地域コーディネーターとも連携を取ったりするなど幅広く活動している。 ・ 市の HP とは別に、独自に定住促進 WEB サイト「糸島生活」で移住を考えている人や住まいを探している人のための情報サイトも作成している(外部委託)。 ・ 空き家対策や移住・定住対策はそれぞれ別の部署で行っているため、相談窓口を「コミュニティー推進課」に一本化して、そこで、横の連携をとりながら活動している。 ・ コミュニティー推進課では、単に移住・定住者が増え、人口が増えればよいという考え方ではなく、移住された方達はその地域にすぐに溶け込めるように、地域の方達とも対話しながら、進めている。 ・ 地域力の向上により、地域も移住者を受け入れ、一緒に地域の活動ができるような、それぞれの地域にあった仕組みを作り上げようと尽力されている。 ・ これにより、糸島の方達に触れることで、「本当に糸島に住みたい」「地域の皆さんと一緒に活動したい」と思ってくれる方が移住している。 ・ これらの取り組みにより、近年は社会増が自然減を上回り、若干ではあるが、人口が増加傾向にある。 ・ どの自治体も空き家や人口減について、頭を痛めている。その中でもこの糸島市の取り組みは、たいへん参考になった。 ・ 将来的に空き家をつくらないために「わが家の未来ノート」を市民に配布しており、このノートは活用できると感じた。
7 写 真 等 ※視察の場合は必須、研修の場合は任意	

※視察先、研修先ごとに 1 枚作成すること。

※「6 所感、提言事項、課題等」は、参加者全員分を記載すること。